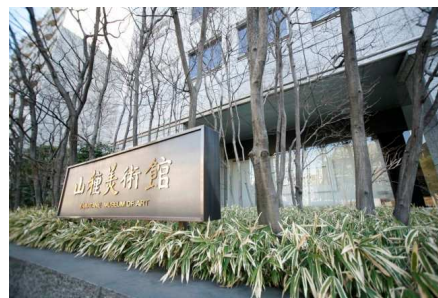


特色ある取組みを行っている社会教育施設

【施設名】財団法人山種美術財団 山種美術館

【施設概要】

山種美術館は、山種証券およびヤマタネの創業者・故山崎種二が蒐集した美術品の寄附により、日本画の一層の向上普及を願って昭和41(1966)年7月、日本橋兜町に「近・現代日本画専門の美術館」として開館しました。その後、昭和51(1976)年、二代目理事長・館長の山崎富治が旧安宅コレクションの速水御舟作品104点を一括して購入しました。それまで所蔵していた作品と合わせて118点(うち79点は素描類)となり、国内外で最も優れた御舟コレクションとされています。当館のこれまでの歩みは、毎年さまざまな切り口でテーマを決め、年間6、7回の展覧会を開催、美術界で高い評価を博しています。しかし、30数年を経て設備の老朽化に伴い、平成10(1998)年に東京都千代田区三番町へ移転いたしました。風光明媚な千鳥ヶ淵に隣接した好環境のもと、毎年春にはお花見の時期に「桜さくらサクラ展」を開催し、地域の季節の社会教育活動の一つとしてご好評いただいております。



山種美術館外観



美術館展示室内

山種美術館ウェブサイト→<http://www.yamatane-museum.or.jp/>

【特色ある取組みなど】

① 所蔵品による企画展に関する活動

山種美術館の収蔵品は、1800余点に達します。その中心は明治から現在までのいわゆる近・現代の日本画です。特定の流派や作家に偏ることなく蒐集しており、また、油彩画、古画、浮世絵、古筆、工芸品などもあり、コレクションの幅の広さと質の高さには定評があります。椿椿山《久能山真景図》、竹内栖鳳《班猫》、速水御舟《炎舞》《名樹散椿》の4点の重要文化財指定品、岩佐又兵衛《官女観菊図》、酒井抱一《秋草鶉図》等の18点の重要美術品はもとより、御舟の作品と素描の118点に及ぶコレクション、奥村土牛の《鳴門》《醍醐》をはじめとする院展に出品された代表作群、そして横山大観《作右衛門の家》、上村松園《砧》、小林古径《清姫》、村上華岳《裸婦図》等の傑作は当館の誇りとなっております。当館では、これらの貴重な作品の保護や保存も考慮しながら、年間6-7本のテーマを決め、所蔵品の中からそのテーマに相応しい作品を選択して展示しております。展示を通じて作家たちの当時の活動や作品が生まれるにいたった歴史的背景、日本画特有の技法など、さまざまな切り口で作品をご紹介します。



速水御舟《炎舞》重要文化財



竹内栖鳳《班猫》重要文化財

② 山種美術館の社会教育活動

●山種美術館賞

当館では、日本画の新たな創造に努める優秀な作家の発掘と育成を願う意図で、1971（昭和46）年に発足し、隔年ごとに平成9年まで第一回から十四回までの山種美術館賞を開催してまいりました。

このコンクールでは、美術関係者24名の推薦委員により推薦された作家から、新作もしくは未発表の作品を出品していただくという形式をとっており、日本画の今後の動向を見極める新人の登竜門として広く注目を集めてきました。

現在は美術館の仮移転に伴い、スペース不足などもあり、開催を一時休止をしておりますが、過去の山種美術館賞を受賞した作家の作品は現在も展覧会のテーマに応じて展示する機会を設け、折々にお客様にご覧いただいております。

●美術館内のギャラリートークの実施

当館では教育普及の一環として、事前にご予約をいただいた団体のお客様を中心に、当館館長もしくは学芸員が展覧会のご紹介と作品の内容を解説するギャラリートークを行っております。

ギャラリートークは月に1-2回程度開催しています。一般にお申し込みいただいた方だけでなく、明治大学博物館（2007年10月15日（月）に実施）、NHK文化センター（2007年12月4日（火）に実施）とも協力し、こうしたカルチャー講座の受講者を対象に、展覧会会場で作品を解説する特別講演会やギャラリートークを行うこともあります。



館内で行われたギャラリートークの様子。

●展覧会に付随した図録、小冊子の刊行

当館では展覧会の開催内容によっては、解説や年表など資料を掲載した図録を刊行するほかに、一般の方々にもわかりやすい内容の解説や作家の言葉など興味深い資料を集め、編集をし、展示される作品や作家を解説した『小冊子』（税込500円）も刊行・販売しています。

日本美術や美術全般の初心者の方々にも読みやすく、求めやすいと大変好評をいただいております。



展覧会に合わせて刊行された小冊子

【来館者数の推移】

平成 16 年度：84,705 人

平成 17 年度：105,999 人

平成 18 年度：140,128 人

【今後の展覧会予定】

展覧会名・会期	内容
<p>秋の彩り ～小林古径・福田平八郎・東山魁夷・安井曾太郎～ 会期：11月17日（土）～12月24日（月・祝）</p>	<p>澄み切った空と名月、燃えるような紅葉、凜と咲く菊、熟した果実など、秋を感じさせる日本画を通して、秋の彩りと美意識を紹介する。</p>
<p>春のめざめ ～横山大観・上村松園・小林古径・安田靱彦～ 会期：2008年1月5日（土）～3月9日（日）</p>	<p>富士山、鶴、松竹梅など新春の吉祥画題や、冬景色から早春への季節の移り変わりの様子を大観・松園・古径・靱彦らの個性あふれる作品で紹介する。</p>
<p>桜さくらサクラ・2008 会期：3月15日（土）～4月20日（日）</p>	<p>所蔵品の中から桜と春の草花をテーマに紹介する恒例の企画展。美術館裏手の千鳥が淵の満開の桜と春の彩りを描いた日本画の美の競演を楽しめる。</p>
<p>大正から昭和へ ～佐伯祐三・小出樞重・速水御舟・川端龍子～ 会期：4月26日（土）～6月8日（日）</p>	<p>当館のコレクションの核をなす、大正から昭和にかけての作品を当時の作家たちの交流にも焦点をあてながら紹介。</p>
<p>日本画満開 <small>ぼたん しょうぶ あじさい けし</small> ～牡丹・菖蒲・紫陽花・芥子～ 会期：6月14日（土）～7月27日（日）</p>	<p>日本画の主題によく用いられる美しい季節の草花。緑潤うこの季節に相応しく、鮮やかな色、かぐわしき香りさえ感じる表現に注目し、日本画の中に描かれる花の美を探る。</p>
<p>夏休み特別企画 いきもの集合！ ～描かれた動物たち～ 会期：8月2日（土）～9月7日（日）</p>	<p>夏休み企画として、親子、家族で楽しめる「動物」を主題とした展覧会。愛らしい動物やけなげに生きる虫などの姿に視線を注ぎ、描いた巨匠たちの作品に注目する。</p>
<p>百寿を超えて ～奥村土牛・小倉遊亀～ 会期：9月13日（土）～11月3日（月・祝）</p>	<p>高齢化社会が叫ばれる今日に相応しく、第二の人生を送る方たちへエールを送るテーマの展覧会。100歳を超えてなお活躍し続けた日本画の巨匠二人に焦点を絞り、その意欲あふれる生き方をそれぞれの作品を通じて紹介する。</p>
<p>琳派から日本画へ ～宗達・抱一・御舟・観山～ 会期：11月8日（土）～12月25日（木）</p>	<p>近代日本画の作家の多くは、江戸時代からの琳派に大いに影響を受け、琳派を学び、自らの画法を確立してきた。琳派の作品とその影響、近世から近代にかけての日本画の流れを検証する。</p>